

阪南市埋蔵文化財報告 50

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XXIX

2012年
阪南市教育委員会

はしがき

阪南市は北に大阪湾を隔てて淡路島を望み、南は和泉山脈を越えて和歌山県にいたる大阪府下でも自然豊かな立地に所在しています。

高度成長期に始まった開発の波が自然破壊と共に、多くの遺跡を破壊していく中で、本市教育委員会では昭和60年度より国庫補助を受けて発掘調査を続けてまいりました。その結果、これまでに貴重な資料を得ることができ、地道な作業の積み重ねで、地域に新しい歴史の発見がありました。

本書は平成23年度の国庫補助事業として実施した発掘調査概要報告書です。今後、多方面において、ご活用いただけるよう願っております。

最後になりましたが、発掘調査にあたり、ご協力いただきました土地所有者並びに関係者各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成24年3月31日
阪南市教育委員会



第1図 阪南市位置図

例　　言

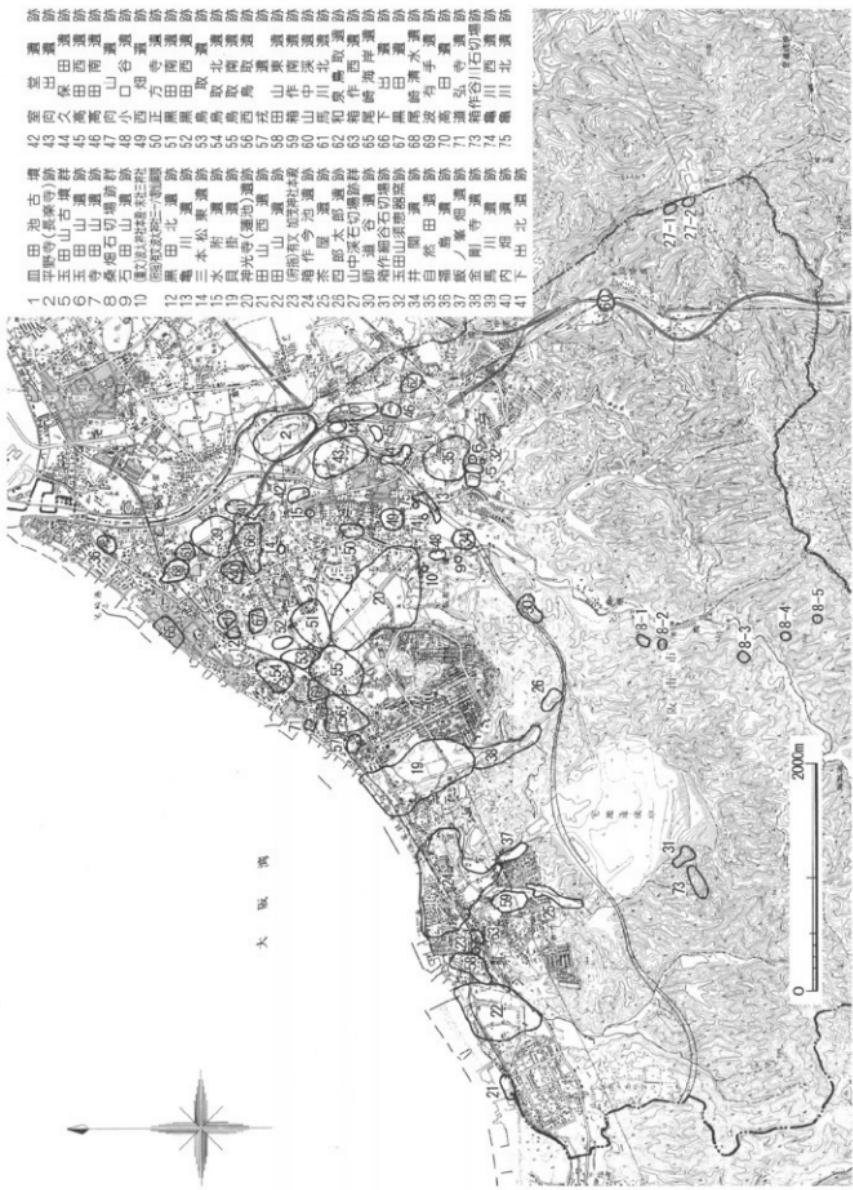
1. 本書は、阪南市教育委員会が阪南市内において実施した、阪南市埋蔵文化財発掘調査概要報告書である。
2. 調査は、平成23年度に国庫補助事業として計画実施した。
3. 現地における調査は、阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進室田中早苗、上野 仁、河村 卓(嘱託)を担当とし、平成23年1月から12月にかけて行った。
4. 本書内で示した標高はT. P. (東京湾平均海面)を基準としている。
5. 発掘調査にあたっては土地所有者等、関係者各位の理解と協力を得た。ここに記して感謝の意を表したい。
6. 本書における記録は実測図、写真、カラースライド等で保存し、当委員会にて保管しているので、広く活用されたい。
7. 本書の執筆、編集は上記の調査担当者が行った。
8. 発掘調査および整理作業に以下の方々の参加を得た。

根無吉隆、南 竹千代、杉田正千代、黒川 喬、和田旬世、井上祥子、
井上 進、島田万帆

目 次

第1章 調査の成果

第1節 尾崎清水遺跡	10-1区	1
	10-2区	2
	11-1区	5
	11-2区	
	11-3区	7
第2節 馬川遺跡	11-1区	11
第3節 下出遺跡	11-1区	13
第4節 黒田遺跡	11-1区	15
第5節 神光寺(蓮池)遺跡	11-2区	19
	11-3区	20
第6節 向出遺跡	10-2区	22
	11-1区	23
第7節 高田遺跡	10-1区	25
第8節 箱作今池遺跡	11-1区	27
第2章 まとめ		28
報告書抄録		29



第2図 阪南市埋蔵文化財分布図

第1章 調査の成果

第1節 尾崎清水遺跡

尾崎清水遺跡は平成4(1992)年度の民間開発工事に伴う事前調査で発見された遺跡である。その後の調査では、遺物包含層から縄文時代晚期から近世期の遺物や古墳時代中期の竪穴住居が検出されている。



第3図 尾崎清水遺跡 調査区位置図



第4図 尾崎清水遺跡10-1区 トレンチ位置図

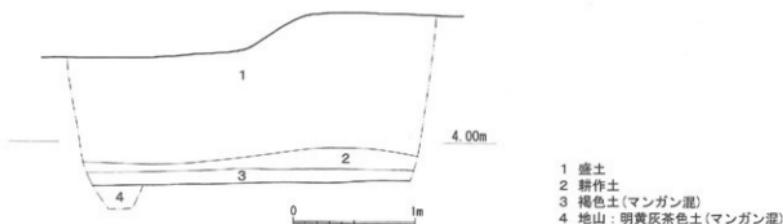
10-1区 (第3~6図)

調査区は尾崎清水遺跡の南部に位置する。

調査は調査区内に3.0m×1.6mのトレンチを設定し実施した。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層マンガン混じりの褐色土、第4層マンガン混じりの明黄灰茶色土の地山である。地山は地表面から約1.38mの深さで検出した。

遺物は第3層からサヌカイト、土師器、須恵器、製塩土器が出土しているが、今回の調査区より北約20mに位置する05-3区では磁器が出土しており、第3層は近世期の包含層で



第5図 尾崎清水遺跡10-1区 トレンチ西側断面図

ある。1・2は縄文時代後期後葉の凸帯文土器の深鉢で、鬼塚期にあたり、從来の滋賀里IV式に比定できる。近年の盛土である第1層から出土したものであるが、近隣に縄文時代の包含層や遺構が存在する可能性があるため、掲載した。

遺構は検出されなかった。

10-2区（第3・7~9図）

調査区は尾崎清水遺跡の北部に位置する。

調査は調査区内に6ヶ所のトレンチを設定し実施した。

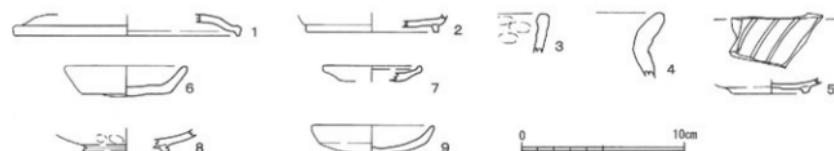
基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層暗褐色風化礫混土、第5層にぶい黄褐色土、第6層オリーブ色砂混粘質土、第7層オリーブ黄色砂礫混粘質土、第8層褐色砂混礫で、6層以下は地山である。地山は地表面から約1.15mの深さで検出した。

1~3トレンチでは地表面より約3.50m掘削したが、植物遺体を含む無遺物層が続き、地山は確認できなかった。6トレンチでは第5層と地山の間に植物遺体を含む黒褐色砂質土が存在した。

遺物は第4層からサヌカイト、片岩、弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、土師質土器、製塩土器、土師質管状土錐、土師質真蛸壺、第5層からサヌカイト、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、土師質土器、製塩土器、土師質真蛸壺・飯蛸壺が出土した。いずれも中世期の包含層である。1・2は奈良時代の須恵器の蓋杯、3・4は奈良時代の製塩土器、5は瓦器椀、6・7は土師質小皿で第4層から出土した。8は瓦器椀、9は土師質小皿で第5層から出土した。

遺構は検出されなかったが、調査区南東部については、埋土の堆積状態から中世期以前は湿地状地形であったと考えられる。

今回の試掘調査の結果を受けて、本調査を行うこととなった。

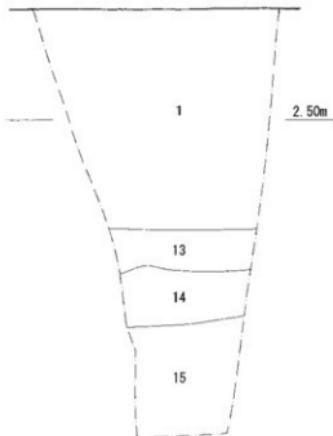


第9図 尾崎清水遺跡10-2区 出土遺物

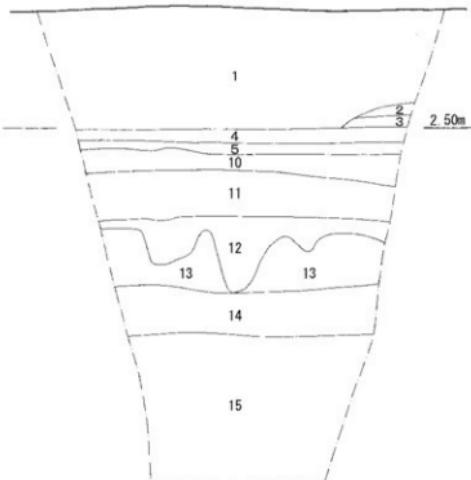


第7図 尾崎清水遺跡10-2・11-1区 トレンチ位置図

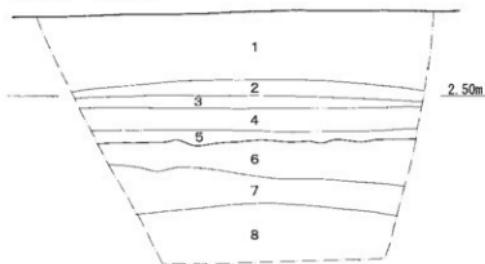
2 トレンチ 南側断面図



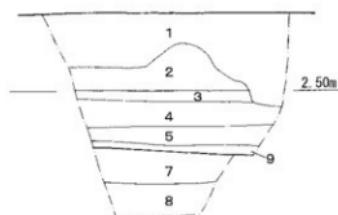
3 トレンチ 西側断面図



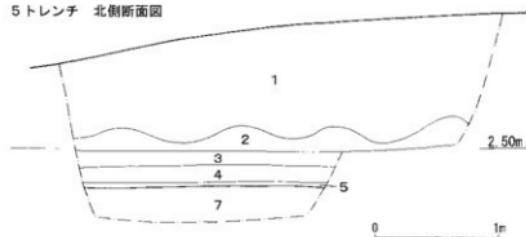
4 トレンチ 東側断面図



6 トレンチ 西側断面図



5 トレンチ 北側断面図



- 1 盛土
- 2 耕作土
- 3 床土
- 4 普褐色風化硬混土 10YR3/3
- 5 にぶい黄褐色土 10YR5/3
- 6 地山：オリーブ色砂混粘質土 5Y6/6
- 7 地山：オリーブ黄色砂混粘質土 5Y6/3
- 8 地山：褐色砂混土 10YR4/4
- 9 黒褐色砂質土（植物遺体含む）5YR2/2
- 10 黄褐色砂混粘質土 2.5Y5/4
- 11 灰黄褐色砂混粘質土 10YR5/2
- 12 褐色砂混粘質土 10YR4/4
- 13 明褐色砂質土（植物遺体含む）7.5YR5/6
- 14 灰黄褐色砂混粘質土 10YR4/2
- 15 オリーブ黒色土（植物遺体含む）5Y3/2

第8図 尾崎清水遺跡10-2区 トレンチ断面図

11-1区（第3・7・10・11図）

調査区は尾崎清水遺跡の北部に位置し、前述した10-2区の西側に隣接する。

調査は調査区内に9ヶ所のトレンチを設定し実施した。

基本層序は10-2区と同じで、第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層暗褐色風化礫混土、第5層にぶい黄褐色土であるが、3・4・7・9トレンチでは遺物包含層は存在しなかった。第6層以下は地山である。

1トレンチでは第5層と地山の間に黒色粘土、黒褐色砂質土、5・6トレンチでは第3層と地山の間にそれぞれ、暗褐色砂礫混土、にぶい黄褐色砂質土が存在する。

遺物は1・2トレンチの第4層から瓦器、土師質土器、瓦質土器、6トレンチのにぶい黄褐色砂質土から陶器、磁器が出土した。1は15世紀の瓦質羽釜で、1トレンチの第4層から出土した。2は近世期の染付磁器碗で、6トレンチのにぶい黄褐色砂質土から出土した。

遺構は検出しなかった。

1～3トレンチの地山が4～9トレンチに比べ、約1.00m低くなっているのは削平を受けているためと思われる。

今回の試掘調査の結果を受けて、本調査を行うこととなった。



第11図 尾崎清水遺跡11-1区 出土遺物

11-2区（第3・12図）

調査区は尾崎清水遺跡の南部に位置する。

調査は調査区内に2.4m×1.5mのトレンチを設定し実施した。

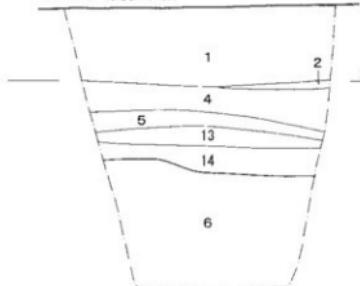
基本層序は第1層盛土、第2層褐色礫混粘質土の地山である。地山は地表面から約2.72mの深さで検出した。

遺物は出土せず、遺構も検出されなかった。

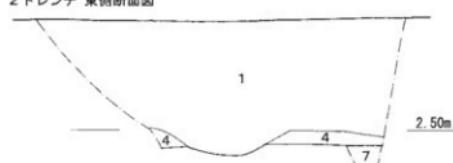


第12図 尾崎清水遺跡11-2区 トレンチ位置図

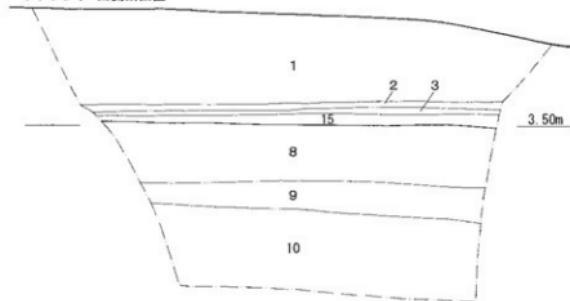
1 トレンチ 東側断面図



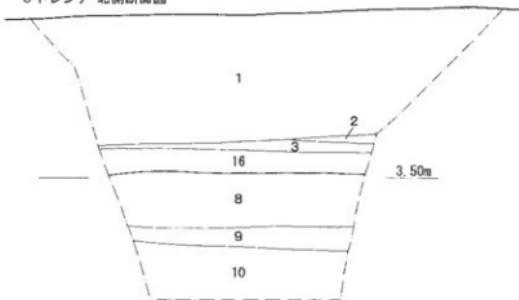
2 トレンチ 東側断面図



5 トレンチ 西側断面図



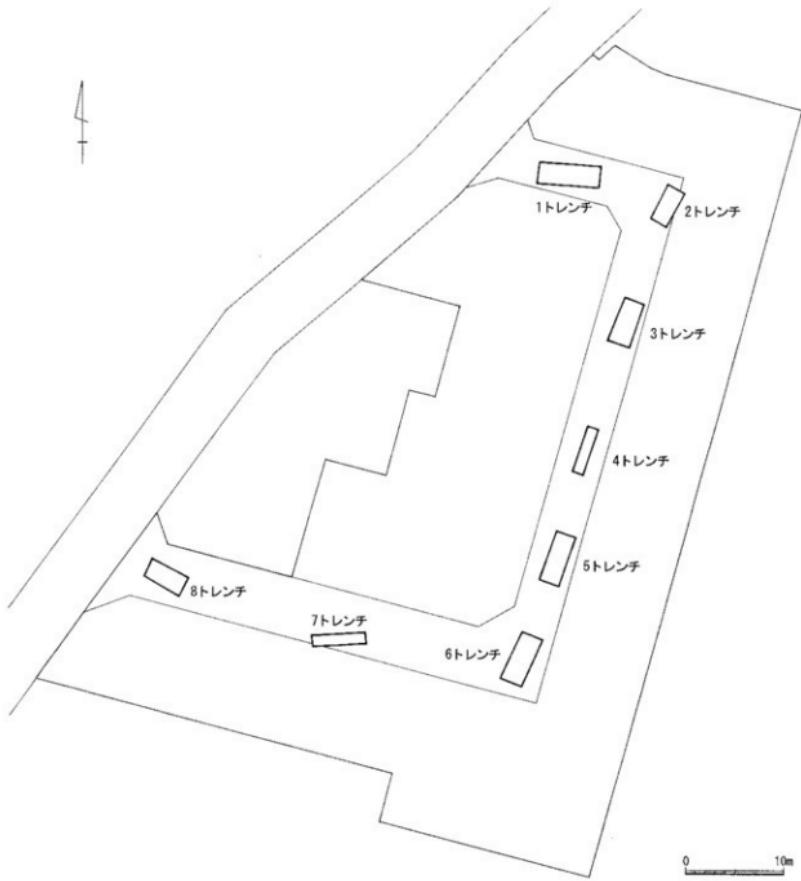
6 トレンチ 北側断面図



- 1 盛土
- 2 耕作土
- 3 床土
- 4 暗褐色風化礫混土 10YR2/3
- 5 にぶい黄褐色土 10YR5/3
- 6 地山：オリーブ色砂混粘質土 5Y6/6
- 7 地山：オリーブ黄色砂礫混粘質土 5Y6/3
- 8 地山：褐色礫混砂質土 10YR4/6
- 9 地山：淡黄色粘土 5Y8/4
- 10 地山：黄褐色礫混土 10YR5/6
- 11 地山：灰黄色粘土 2.5Y6/2
- 12 地山：灰黄色礫混粘土 2.5Y6/2
- 13 黒色粘土 2.5Y2/1
- 14 黑褐色砂質土 5YR2/2
- 15 暗褐色砂礫混土 10YR3/4
- 16 にぶい黄褐色砂質土 10YR4/3

0 1m

第10図 尾崎清水遺跡11-1区 トレンチ断面図



第13図 尾崎清水遺跡11-3区 トレンチ位置図

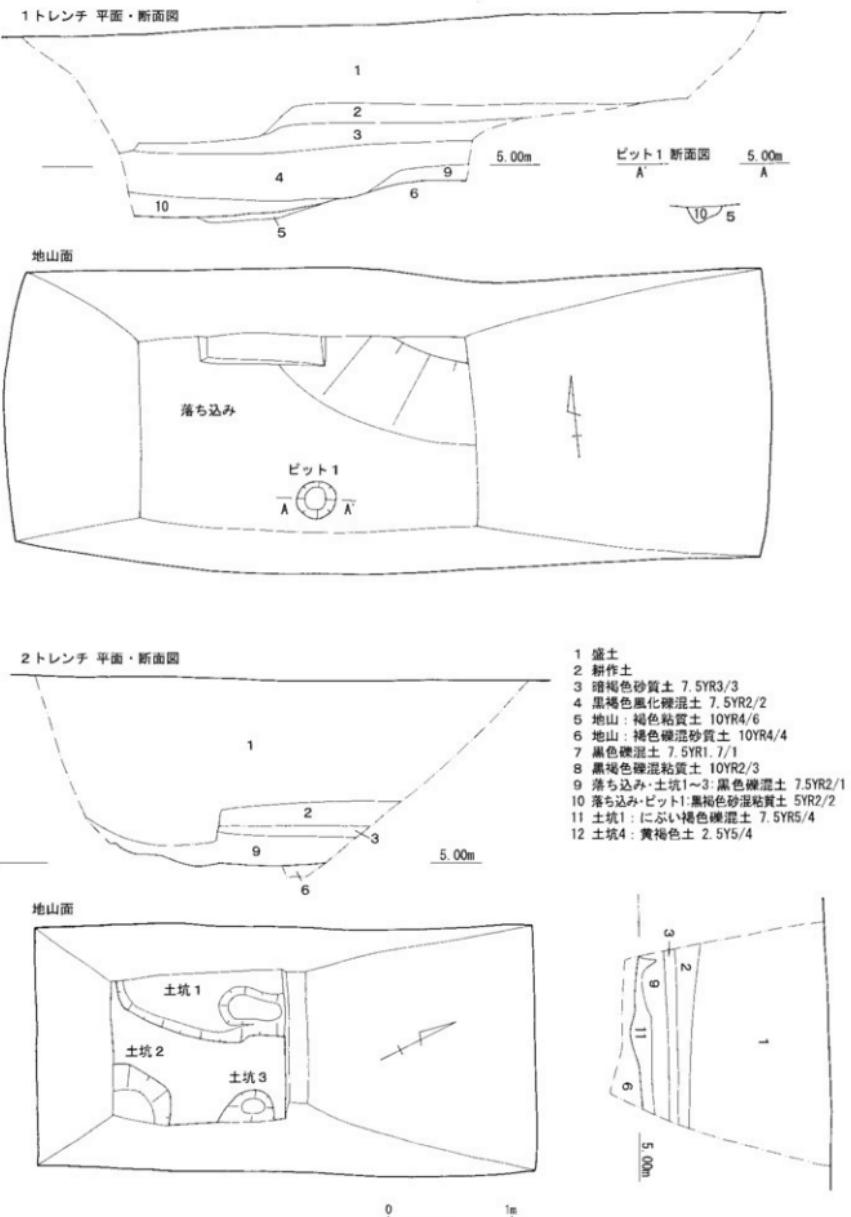
11-3区（第3・13～15図）

調査区は尾崎清水遺跡の中央部に位置する。

調査は調査区内に8ヶ所のトレンチを設定し実施した。

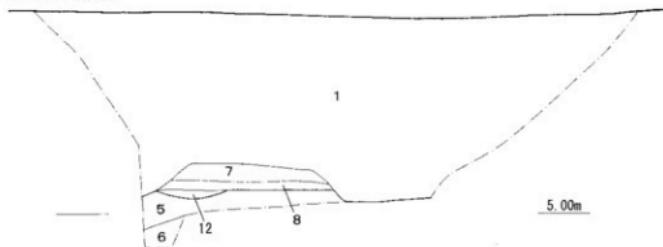
基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層暗褐色砂質土、第4層黒褐色風化礫混土、第5層褐色粘質土、第6層褐色礫混砂質土で、第5層以下は地山である。地山は地表面から約1.30mの深さで検出した。3～6トレンチでは第3層が存在しない。3トレンチでは第5層の上に黒色礫混土、黒褐色礫混粘質土が存在する。

遺物は第3層から黑色土器、瓦器、土師質土器、瓦質土器、陶器、スサ入り焼土塊、第4

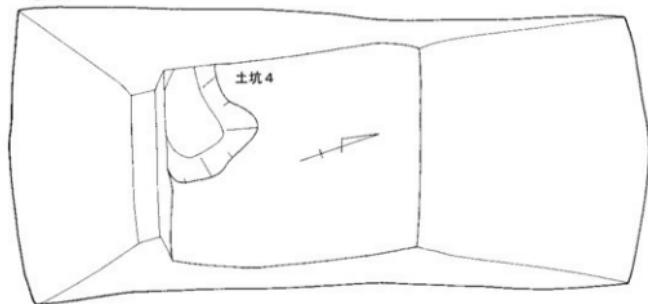


第14図 尾崎清水遺跡11-3区 トレンチ平面・断面図

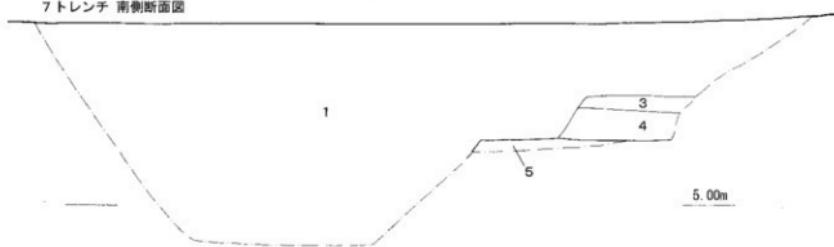
3 トレンチ 平面・断面図



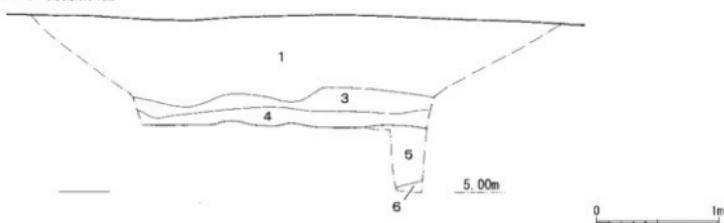
地山面



7 トレンチ 南側断面図



8 トレンチ 南側断面図



第15図 尾崎清水遺跡11-3区 トレンチ平面・断面図

層から黒色土器、土師質土器、スサ入り焼土塊が出土した。また、黒色礫混土から土師質土器、陶器、磁器が、黒褐色礫混粘質土からは須恵器、土師質土器、土師質管状土錐、中世瓦が出土した。

遺構は地山面で落ち込み1基、土坑4基、ピット1基を検出した。

今回の試掘調査の結果を受けて、本調査を行うこととなった。

落ち込み

1トレンチで検出した。埋土は第1層が基本層序の第4層と同じ黒褐色風化礫混土、第2層黒色礫混土、第3層黒褐色砂混粘質土である。トレンチ全体が落ち込み内の可能性がある。遺物は第1層から黒色土器、土師質土器、スサ入り焼土塊、第3層から土師質土器が出土したが、小片のため図化できなかった。

土坑1

2トレンチの地山面で検出した。東西0.60m以上、南北1.50m以上、深さ0.22mを測り、埋土は上層が黒色礫混土、下層がにぶい褐色礫混土で、上層の埋土は1トレンチの落ち込みの埋土と同じ為、落ち込みの一部の可能性がある。

遺物は上層から土師質土器が出土したが、小片のため図化できるものはなかった。中世期の遺構と思われる。

土坑2

2トレンチの地山面で検出した。東西0.50m以上、南北0.50m以上、深さ0.22mで、埋土は落ち込みや土坑1の上層と同じ黒色礫混土である。遺物は出土しなかった。

土坑3

2トレンチの地山面で検出した。東西0.25m以上、南北0.48m以上、深さ0.18mを測り、埋土は落ち込みや土坑1の上層と同じ黒色礫混土である。遺物は出土しなかったが、埋土から中世期の遺構と思われる。

土坑4

3トレンチの地山面で検出した。東西0.95m以上、南北0.85m以上、深さ0.08mを測り、埋土は黄褐色土である。遺物は出土しなかった。

ピット1

1トレンチの落ち込み底部の地山面で検出した。直径0.30m、深さ0.13mである。遺物は出土しなかったが、埋土が落ち込みの最下層と同じ黒褐色砂混粘質土であるため、中世期の遺構である。

第2節 馬川遺跡

馬川遺跡は阪南市の北東部を流れる男里川の左岸に位置し、砂洲である低地部と和泉山脈により派生した段丘上にまたがっている。昭和62(1987)年に阪南町教育委員会が行った埋蔵文化財分布調査でサヌカイト、土師器、須恵器等が採取されたことで、発見周知された。

本遺跡の北側には縄文時代後期から弥生時代中期の流路を検出した馬川北遺跡があり、南側は中世期の墓地を検出した下出遺跡、西側は平安時代から近世期の遺構、遺物を検出した内畠遺跡に囲まれ、男里川の対岸には縄文時代以降の複合遺跡として知られる泉州市の男里遺跡が存在する。過去の調査において、低地部ではサヌカイト、弥生土器、土師器、須恵器等の弥生時代から奈良時代にかけての遺物が多く出土している。また、段丘上では多量の中世瓦が出土していることから付近に中世寺院の存在が想定される。その他に中世期の蛸壺焼成土坑、16世紀後半から19世紀前半の墓地等が検出されている。

11-1区（第16～19図）

調査区は馬川遺跡の西部に位置する。

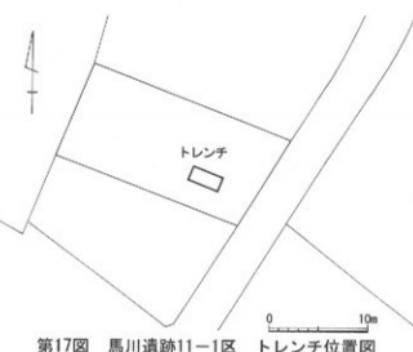
調査は調査区内に3.2m×1.5mのトレンチを設定し実施した。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層黒褐色土、第4層黒褐色土、第5層褐色礫混粘質土の地山である。地山は地表面から約0.65mの深さで検出した。

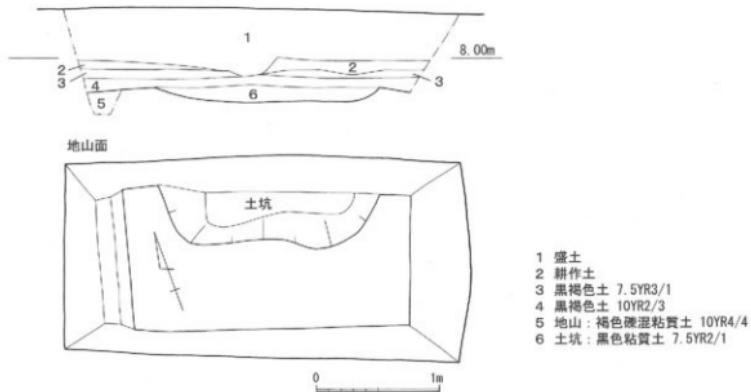
遺物は第3層から土師質土器、陶器、磁器、近世瓦、第4層から土師質土器、陶器、磁器、近世瓦、貨幣と鍼と思われる鉄製品が出土した。出土遺物から第3・4層は近世期の包含層



第16図 馬川遺跡 調査区位置図



第17図 馬川遺跡11-1区 トレンチ位置図



第18図 馬川遺跡11-1区 トレンチ平面・断面図

と思われる。1・2は陶器の椀、3は染付磁器の筒型椀、4は銅錢で、無背の新寛永通宝である。1は第3層、2~4は第4層から出土した。

遺構は地山面で土坑を1基検出した。東西1.80m以上、南北0.46m以上、深さ0.15mを測り、トレンチの北方向に広がりを見せる。断面は皿形を呈し、埋土は黒色粘質土である。遺物は出土しなかったが、層序関係から近世期もしくはそれ以前の遺構と思われる。



第19図 馬川遺跡11-1区 出土遺物

第3節 下出遺跡

下出遺跡はその北部を信長街道が東西に貫通し、西部は井関越街道と接しており、古い民家が立ち並ぶ旧集落である。平成3(1991)年度の民間開発工事に先立つ確認調査で発見周知された。その調査では鎌倉時代から近世期にかけての瓦が多量に出土しており、付近に寺院の存在が想定される。

11-1区（第20～23図）

調査区は下出遺跡の中央部に位置する。

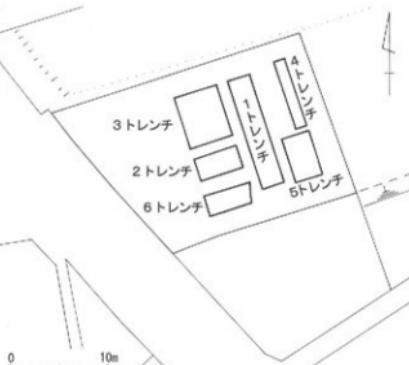
調査は調査区内に6ヶ所のトレンチを設定し実施した。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層暗褐色砂混礫、第5層オリーブ褐色砂礫混土で、第4・5層は地山である。地山は地表面から約1.50mの深さで検出した。

遺構は地山面で北方向への落ち込みを検出した。埋土は上層から黒褐色礫混土、黒褐色風化礫混土、黒色風化礫混粘質土が続き、最下層は赤褐色粘質土である。最深部は地山面より約1.40mを測り、調査区外の北方向へさらに下がっていくようである。遺物は黒褐色礫混土からサヌカイト、須恵器、黒色土器、瓦器、土師質土器、土師質有孔土錐、土師質真蛸壺、中世瓦、スサ入り焼土塊、黒褐色風化礫混土から須恵器、瓦器、土師質土器、白磁、土師質真蛸壺、スサ入り焼土塊が出土しており、中世期の落ち込みと思われる。それ以下の層から遺物は出土しなかった。



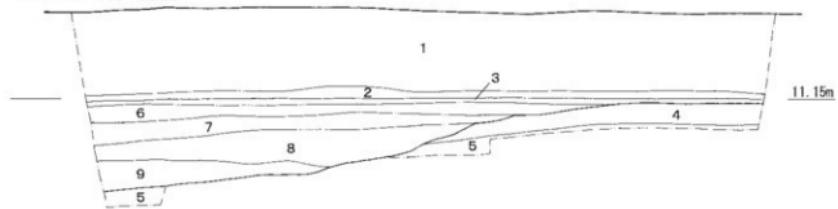
第20図 下出遺跡 調査区位置図



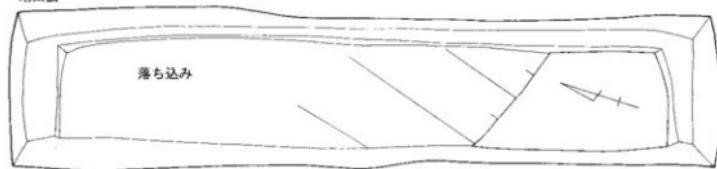
第21図 下出遺跡11-1区 トレンチ位置図

1は土師質の有孔土錐、2～5は瓦器で、2～4は椀、5は小皿、6は白磁の皿である。1～3は落ち込みの黒褐色礫混土、4～6は黒褐色風化礫混土から出土した。

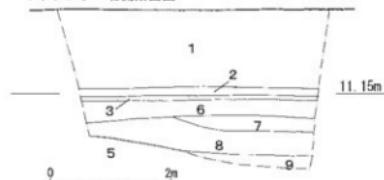
1 トレンチ 平面・断面図



地山面

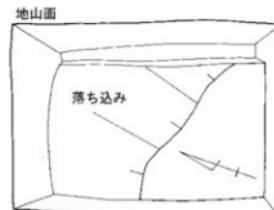
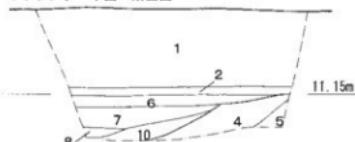


3 トレンチ 北側断面図

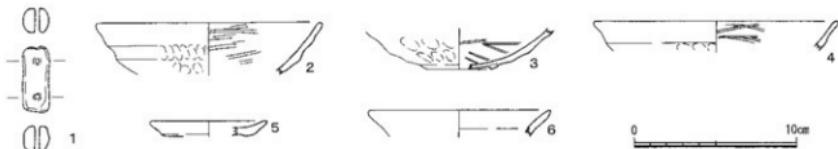


- 1 盛土
- 2 稲作土
- 3 床土
- 4 地山 : 喷褐色砂混土 10YR3/4
- 5 地山 : オリーブ褐色砂混土 2.5Y4/6
- 6 落ち込み : 黑褐色礫混土 7.5YR2/2
- 7 落ち込み : 黑褐色風化礫混土 7YR2/2
- 8 落ち込み : 黑褐色風化礫混粘質土 7.5YR2/1
- 9 落ち込み : 黑色風化礫混粘質土 7.5YR1.7/3
- 10 落ち込み : 雜赤褐色粘質土 5YR3/3

5 トレンチ 平面・断面図



第22図 下出遺跡11-1区 トレンチ平面・断面図



第23図 下出遺跡11-1区 出土遺物

第4節 黒田遺跡

黒田遺跡は平成4(1992)年に民間の開発工事に先立つ調査によって存在が確認された。その調査では中世期を中心とする遺物、遺構が検出されている。また、遺跡の中央部で行われた調査では、奈良時代の遺物を含む溝が検出されていることから、奈良時代及び中世期の生活跡の存在が想定される。



第24図 黒田遺跡 調査区位置図

11-1区（第24～29図）

調査区は黒田遺跡の北部に位置する。

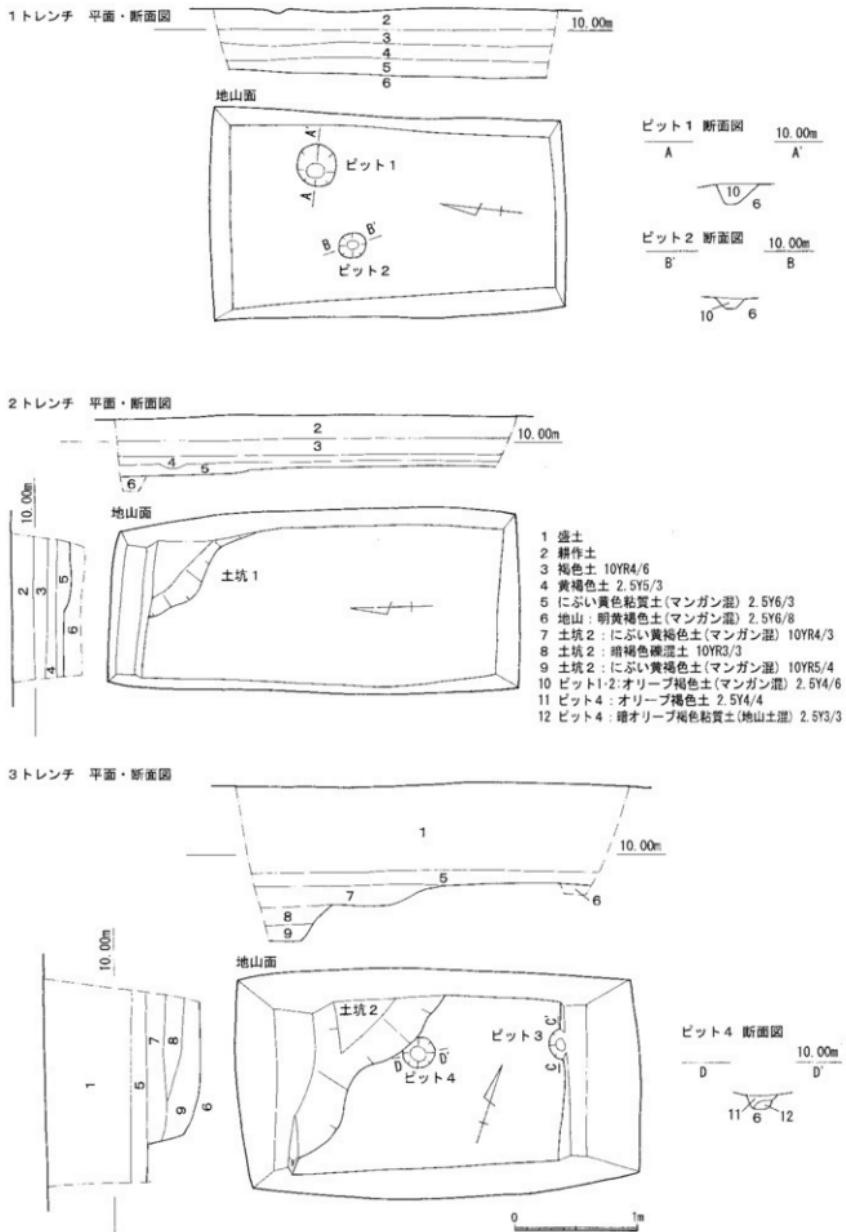
調査は調査区内に北から3.0m×1.5mの1トレンチ、3.2m×1.2mの2トレンチ、3.0m×1.5mの3トレンチを設定し実施した。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層褐色土、第4層黄褐色土、第5層マンガン混じりのぶい黄色粘質土、第6層マンガン混じりの明黄褐色土の地山である。地山は地表面から約0.50～0.80mの深さで検出した。3トレンチでは、第2～4層は存在しなかった。

遺物は第3層から土師質土器、土師質真蛸壺、陶器、磁器、スサ入り焼土塊、第4層から瓦器、土師質土



第25図 黒田遺跡11-1区 トレンチ位置図



第26図 黒田遺跡 11-1区 トレンチ平面・断面図

器、土師質真蛸壺、陶器、第5層から土師器、須恵器、
黒色土器、瓦器、土師質土器、製塙土器、スサ入り
焼土塊が出土した。第3・4層は近世期、第5層は中世
期の包含層と思われる。

遺構は2トレンチの第5層上面で溝を1条、1~3トレ
ンチの地山面で土坑を2基、ピット4基を検出した。

今回の試掘調査の結果を受けて、本調査を行うこ
ととなった。

第5層上面検出遺構

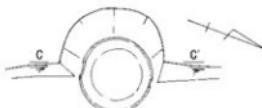
溝1

2トレンチで検出した。長さ1.40m以上、幅0.30m、深さ0.40mを測る東西方向の溝で、
埋土は第4層と同じ黄褐色土である。遺物は出土しなかったが、埋土から近世期の遺構と
思われる。

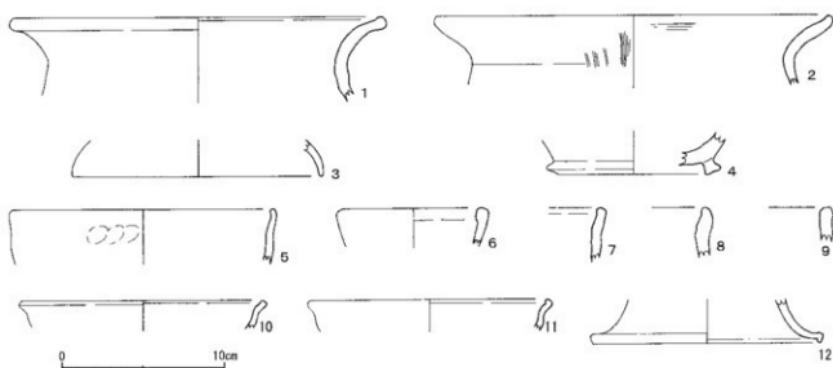
地山面検出遺構

土坑1

2トレンチで検出した。東西0.65m以上、南北1.05m以上、深さ0.05mを測り、トレン
チ外の北東部に広がる。遺物は出土しなかったが、埋土が第5層と同じマンガン混じりの
にぶい黄色粘質土であるため、中世期の遺構と思われる。



第27図 黒田遺跡11-1区
ピット3 平面・断面図



第28図 黒田遺跡11-1区 土坑1 出土遺物

土坑2

3トレンチで検出した。東西1.40m以上、南北1.30m以上、深さ0.46mを測り、2段落ちで、ピット4を切っている。埋土は第1層マンガン混じりのにぶい黄褐色土、第2層暗褐色礫混土、第3層マンガン混じりのにぶい黄褐色土である。遺物は第1層から弥生土器、土師器、須恵器、製塩土器、第2層から土師器、製塩土器、第3層から土師器、須恵器が出土した。奈良時代の遺構である。1は弥生土器の壺、2は土師器の甕、3・4は須恵器で、3は杯蓋、4は壺である。5～9は製塩土器、10・11は土師器皿、12は須恵器の高杯脚部である。1～9は第1層、10～12は第3層から出土した。

ピット1

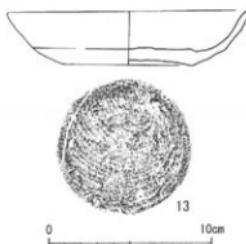
1トレンチで検出した。直径0.32m、深さ0.16mを測り、埋土はマンガン混じりのオリーブ褐色土である。遺物は土師質土器が出土したが、小片のため図示できなかった。中世期の遺構である。

ピット2

1トレンチで検出した。直径0.22m、深さ0.08mで、埋土はピット1と同じマンガン混じりのオリーブ褐色土である。遺物は出土しなかったが、ピット1と同じ中世期の遺構と思われる。

ピット3

3トレンチで検出した。直径0.24m、深さ0.32mを測り、埋土は上層がオリーブ褐色土、下層が灰オリーブ色土である。遺物は上層から弥生土器、黒色土器、土師質土器、下層から土師質土器、黒色土器が出土した。灰オリーブ色土の直上に13の土師質土器皿が埋納されていた。皿は直径15.0cm、高さ3.5cmの完形品で、底部は糸切りである。平安時代の遺構と思われる。



第29図 黒田遺跡11-1区
ピット3 出土遺物

ピット4

3トレンチで検出した。直径0.28m、深さ0.26mを測り、土坑2に切られている。埋土は上層がオリーブ褐色土、下層が地山の土が混じる暗オリーブ褐色粘質土である。遺物は上層から土師器、下層から須恵器、土師質土器が出土した。奈良時代の遺構と思われる。

第5節 神光寺(蓮池)遺跡

神光寺(蓮池)遺跡は、市内で古くから知られている複合遺跡である。遺跡内に所在する市内最大の灌漑用溜池である蓮池の池底からは、縄文時代草創期のサヌカイト製有茎尖頭器が採取されている。また、既往の調査において、弥生時代中期の方形周溝墓が検出されている他、当遺跡の南側に所在する波太神社の神宮寺であった神光寺の瓦が出土していることも特徴的である。

11-2区（第30～33図）

調査区は神光寺(蓮池)遺跡の東部に位置する。

調査は調査区内に2.6m×1.3mのトレンチを設定し実施した。

基本層序は第1層盛土、第2層床土、第3層灰褐色砂質土、第4層黄褐色土、第5層マンガン混じりの灰褐色土、第6層明褐色粘質土の地山である。地山は地表面から約0.58mの深さで検出した。

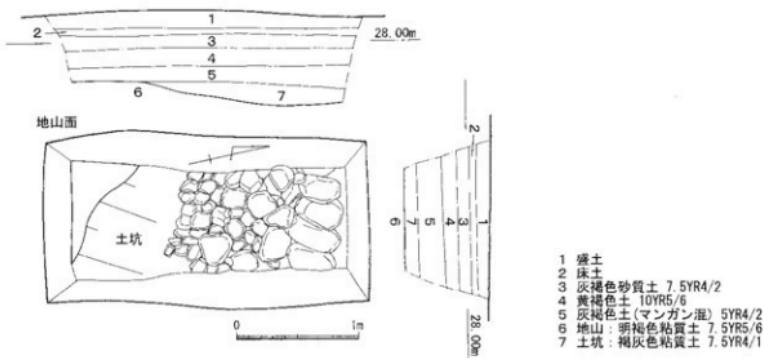
遺物は第3層から瓦器、第4層から土師質土器、中世瓦、第5層から瓦器、土師質土器、白磁等の中世期の遺物が出土した。しかし、当調査区の北側に隣接する既往調査の11-1区では、第3層から磁器が出土していることから、近世期の包含層と思われる。第4層以下は中世期の包含層である。1は第5層から出土した白磁碗である。

遺構は地山面で土坑を検出した。東西0.95m以上、南北2.30m以上、深さ0.23mを測り、トレンチのほぼ全体が土坑内になると考えられる。埋土は褐灰色粘質土で、底部に石を敷き詰めている。石の形状は表面が平らで、北部は長辺約40cm、短辺約20cm程度の石を東から西方向に一列に敷き並べ、その南側には約10cm大の石を土坑の下端まで敷いている。



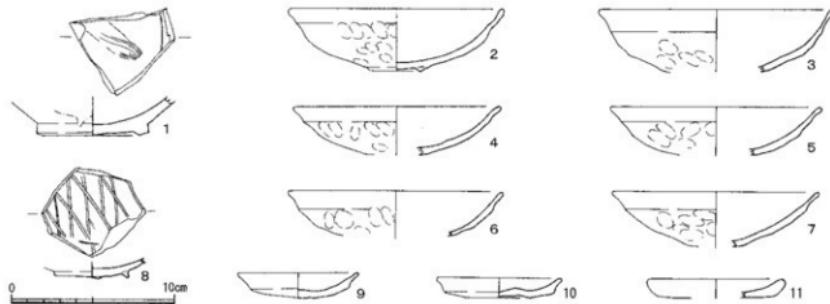
第30図 神光寺(蓮池)遺跡 調査区位置図

第31図 神光寺(蓮池)遺跡11-2区 トレンチ位置図



第32図 神光寺(蓮池)遺跡11-2区 トレンチ平面・断面図

トレンチの北側断面には石がみられないため、石敷きは北側には延びていないものと思われる。遺物は石敷きの直上で特に多く、瓦器、土師質土器、土師質管状土錘、中世瓦が出たことから中世期の遺構と思われる。2~8は瓦器碗、9は瓦器皿、10・11は土師質小皿である。



第33図 神光寺(蓮池)遺跡11-2区 出土遺物

11-3区 (第30・34・35図)

調査区は神光寺(蓮池)遺跡の南部に位置する。

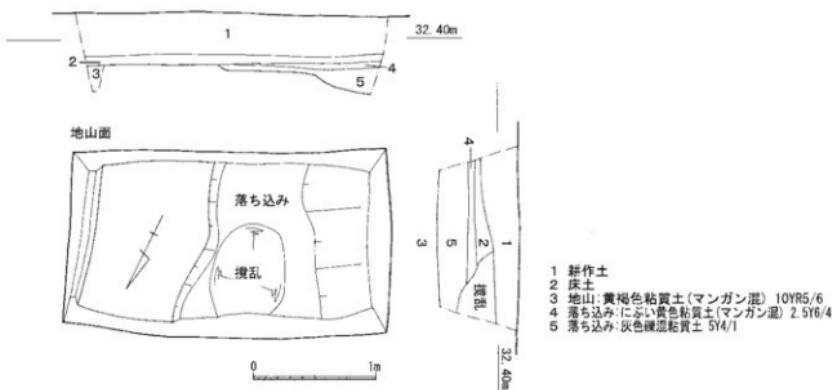
調査は調査区内に2.5m×1.5mのトレンチを設定し実施した。

基本層序は第1層耕作土、第2層床土、第3層マンガン混じりの黄褐色粘質土の地山である。地山は地表面から約0.43mの深さで検出した。

遺構は地山面の中央部で、西方向の落ち込みを検出した。深さは西側の最深部で0.30mを測り、埋土は上層がマンガン混じりのにぶい黄色粘質土、下層が灰色礫混粘質土である。遺物は各層から土師質土器が出土したが、小片のため図化できるものはなかった。中世期の落ち込みと思われる。



第34図 神光寺(蓮池)遺跡11-3区 トレンチ位置図



第35図 神光寺(蓮池)遺跡11-3区 平面・断面図

第6節 向出遺跡

向出遺跡は、阪南市の東部を流れる男里川の支流である山中川と菟底川に挟まれた河岸段丘とその氾濫原に位置する。

昭和62(1987)年度に阪南町教育委員会が行った埋蔵文化財分布調査によって発見された。遺跡は東西約300m、南北約500mと比較的大きく、遺跡の北部では調査件数が少ないため詳細は不明であるが、中央部で

行った00-2区と06-1区の調査では、古墳時代中期の竪穴住居が各1棟確認された。南部では、平成9(1997)年に(財)大阪府文化財センターが行った国道26号線(第2阪和国道)延長工事に先立つ事前調査で、縄文時代後期から晩期の西日本最大級の土坑墓群が検出されている。

また、遺跡の南部からは中世瓦が出土しているものの、寺院等に関連する遺構は現在のところ検出されていない。



第36図 向出遺跡 調査区位置図



第37図 向出遺跡10-2区 トレンチ位置図

10-2区（第36～38図）

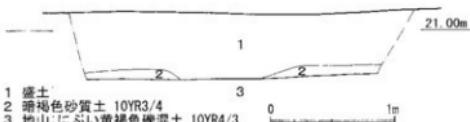
調査区は向出遺跡の中央部に位置する。

調査は調査区内に2.8m×1.7mのトレンチを設定し実施した。

基本層序は第1層盛土、第2層暗褐色砂質土、第3層にぶい黄褐色礫混土の地山である。地山は地表面から約0.55mの深さで検出した。

遺物は盛土から磁器が1点出土したのみであるが、隣接する既往調査の08-3区では第2層と同じ暗褐色砂質土から、土師器、須恵器、瓦器等の遺物が出土していることから、第2層は中世期の包含層と思われる。

遺構は検出されなかった。



第38図 向出遺跡10-2区 トレンチ東側断面図

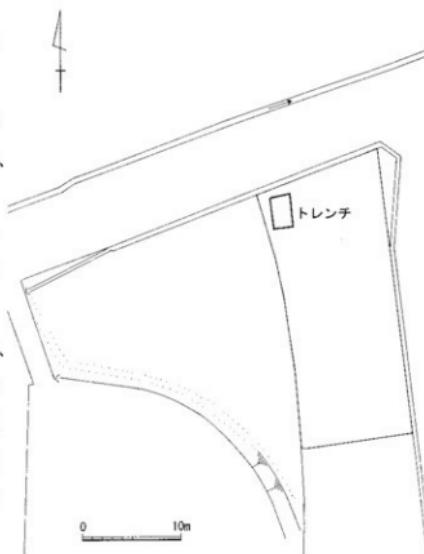
11-1区（第36・39～41図）

調査区は向出遺跡の北部に位置する。

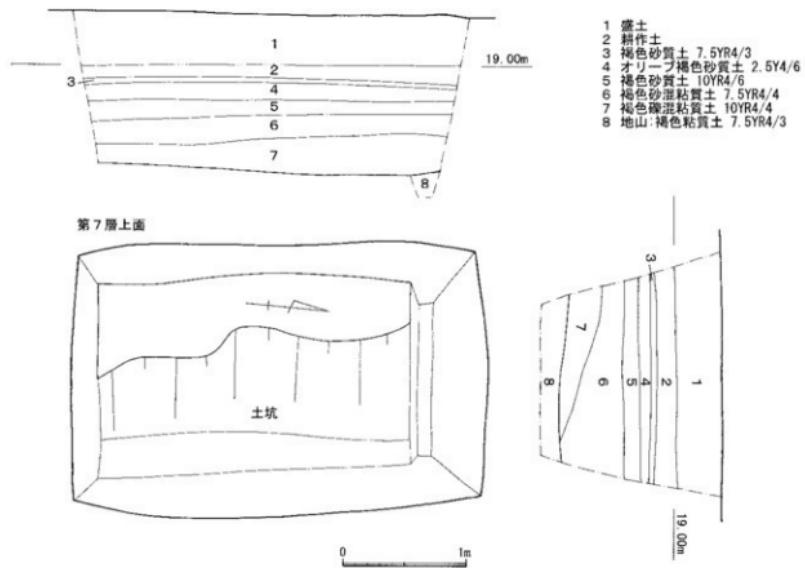
調査は調査区内に3.2m×2.0mのトレンチを設定し実施した。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層褐色砂質土、第4層オリーブ褐色砂質土、第5層褐色砂質土、第6層褐色砂混粘質土、第7層褐色礫混粘質土、第8層褐色粘質土の地山である。地山は地表面から約1.25mの深さで検出した。

遺物は第3層から黒色土器、土師質土器、第4層からサヌカイト、土師器、瓦器、土師質土器、陶器、鉄製品、第5層から須恵器、土師質土器、瓦器、陶器、鉄滓、第6層から須恵器、土師質土器、第7層から瓦器、土師質土器が出土した。



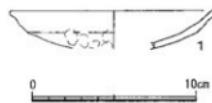
第39図 向出遺跡11-1区 トレンチ位置図



第40図 向出遺跡11-1区 トレンチ平面・断面図

第3～5層は近世期の包含層、第6・7層は中世期の包含層と考えられる。1は瓦器椀である。第7層から出土した。

遺構は第7層上面で土坑を検出した。東西1.20m以上、南北2.70m以上、深さ0.33mを測り、土坑の大半がトレンチ外に広がっており、溝の可能性も考えられる。遺物は出土しなかつたが、埋土が第6層と同じ褐色砂混粘質土であるため、中世期の遺構と思われる。



第41図 向出遺跡11-1区 出土遺物

第7節 高田遺跡

高田遺跡は平成5(1993)年度に発見周知された。阪南市の東部を流れる男里川の支流である山中川の氾濫原と高田山古墳群を擁する丘陵部に挟まれた平野部に営まれた遺跡である。これまでの調査では縄文時代晚期から近世期の遺物が出土しているが、小規模な発掘調査が多く、資料数が少ないため、現在のところ遺跡の詳細な性格は不明である。

10-1区（第42～44図）

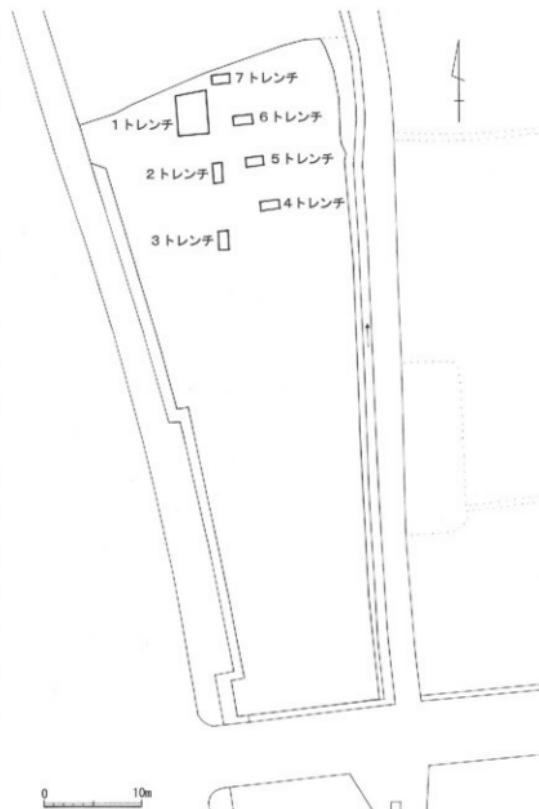
調査区は高田遺跡の北部に位置する。

調査は調査区内に4.2m×3.2mのトレンチ1ヶ所と2.0m×1.0mのトレンチ6ヶ所を設定し実施した。

トレンチの基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層マンガン混じりの淡褐色粘質土、第5層淡灰橙色粘土の地山である。地山は地表面から約1.20mの深さで検出した。2～7トレンチは、工事で掘削が及ぶ深さが約0.6m



第42図 高田遺跡 調査区位置図

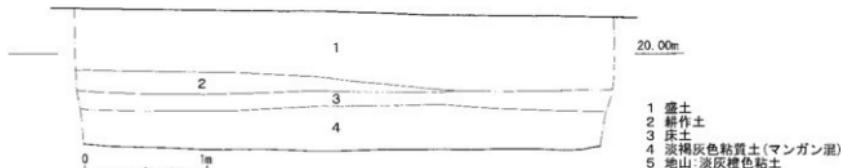


第43図 高田遺跡10-1区 トレンチ位置図

までとなっていたため、それ以下は確認していない。

遺物は第4層から須恵器、瓦器、土師質土器が出土したが、小片のため図化できるものはなかった。中世期の包含層と思われる。当調査区の東側に隣接する既往調査の94-1区でも第4層と同じマンガン混じりの淡褐色粘質土から中世期の遺物が出土している。

遺構は検出されなかった。



第44図 高田遺跡10-1区 1トレンチ西側断面図

第8節 箱作今池遺跡

箱作今池遺跡は阪南市の北西部に位置し、茶屋川とその支流である飯ノ峯川が形成する扇状地に所在する。平成5(1993)年に(財)大阪府文化財調査研究センターが遺跡南部で行った調査により、奈良時代に掘立柱建物群が築造され、室町時代には大規模な土地改変で耕作地化されたことがわかつている。北部の調査では海岸線に近い場所から中世期の蛸壺をはじめとする漁具が出土しており、漁撈集落の存在が想定されるもの的小規模な調査が多く、資料数が少ないため、現在のところ遺跡の詳細な性格は不明である。

11-1区（第45～47図）

調査区は箱作今池遺跡の西部に位置する。

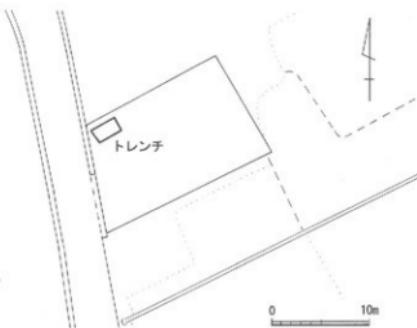
調査は調査区内に2.8m×1.5mのトレンチを設定し実施した。

基本層序は第1層盛土、第2層マンガン混じりの灰黄褐色粘質土、第3層明黄褐色粘土混砂質土、第4層明褐色風化礫混砂質土の地山である。地山面は平坦ではなく、若干の起伏がみられる。

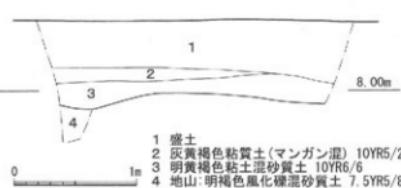
いずれの層からも遺物は出土せず、遺構も検出されなかった。



第45図 箱作今池遺跡 調査区位置図



第46図 箱作今池遺跡11-1区 トレンチ位置図



第47図 箱作今池遺跡11-1区
トレンチ南側断面図

まとめ

今年度の調査も小規模なものが多数を占めたが、それらの内5件が本調査へと繋がり、本調査においても、阪南市の新たな歴史を知る手がかりを得ることができた。

とりわけ尾崎清水遺跡では、縄文時代の遺物を含む河川が、古墳時代には湿地や居住地になり、中世期に入ると湿地部は農地へと整備されていくという変遷が明らかとなった。

黒田遺跡では、これまでに奈良時代の遺物を含む溝や、中世期を中心とする遺構、遺物は検出されていたが、今回の調査では、完形の土器が埋納されたピットが検出されたことにより、中世期の生活跡の存在がより確かになった。

また、本調査には至らなかったが、神光寺(蓮池)遺跡では、 $2.6m \times 1.3m$ という狭いトレンチであったにもかかわらず、石敷きの土坑が検出された。同遺跡においては、平成17(2005)年に、この調査区の北側約40mの地点で石積み遺構を検出しており、波太神社の神宮寺であった神光寺跡解明への資料が新たに加えられたのではないかと思われる。

発掘調査は調査規模の大小にかかわらず、地道な作業の連続である。阪南市教育委員会では、小規模ながらも、このような調査を継続することで、新たな事実を積み重ねてきた。今後も発掘調査を手立てとして、阪南市の歴史を豊かなものにしていきたい。

報告書抄録

ふりがな	はんなんしまいぞうぶんかざいはっくつちようさがいよう 29							
書名	阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 XXIX							
副書名								
卷次								
シリーズ名	阪南市埋蔵文化財報告							
シリーズ番号	50							
編著者名	田中早苗・上野仁・河村卓							
編集機関	阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進室							
所在地	〒599-0292 大阪府阪南市尾崎町35-1 TEL 072-471-5678							
発行年月日	2012年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村番号	遺跡番号					
おざきしみず 尾崎清水	おざきちょう 尾崎町	27232	68	34 21 34	135 14 53	20110128～0131	4.80	記録保存 調査
おざきしみず 尾崎清水	おざきちょう 尾崎町	27232	68	34 21 36	135 14 43	20110311～0325	46.90	試掘・ 確認調査
おざきしみず 尾崎清水	おざきちょう 尾崎町	27232	68	34 21 36	135 14 43	20110418～0421	59.68	試掘・ 確認調査
おざきしみず 尾崎清水	おざきちょう 尾崎町	27232	68	34 21 35	135 14 50	20110803・0804	3.60	記録保存 調査
おざきしみず 尾崎清水	しもいだ 下出	27232	68	34 21 32	135 14 47	20111207～1216	77.98	試掘・ 確認調査
うま 馬	しもいだ 下出	27232	39	34 21 26	135 14 54	20110824・0825	4.80	記録保存 調査
しも 下	しもいだ 下出	27232	66	34 21 16	135 15 00	20110401～0418	90.75	記録保存 調査
くろ 黒	くろだ 黒田	27232	67	34 21 14	135 14 33	20110928～1013	12.86	試掘・ 確認調査
じんこうじはすいけ 神光寺(蓮池)	いしだ 石田	27232	20	34 20 36	135 14 55	20110715～0721	3.38	試掘・ 確認調査
じんこうじはすいけ 神光寺(蓮池)	いしだ 石田	27232	20	34 20 30	135 14 55	20111205・1206	3.75	記録保存 調査
むか 向	じねんだ 自然田	27232	43	34 20 51	135 15 33	20110303・0304	4.76	記録保存 調査
むか 向	じねんだ 自然田	27232	43	34 20 53	135 15 26	20110809・0810	6.40	記録保存 調査
こう 高	じねんだ 自然田	27232	70	34 20 50	135 15 45	20101206～1217	26.08	試掘・ 確認調査
はこつくりいわいけ 箱作今池	はこつくり 箱作	27232	24	34 20 16	135 12 51	20110608・0609	4.20	記録保存 調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
尾崎清水	散布地	中世期		縄文土器、土師器、須恵器、製塙土器	
尾崎清水	散布地	中世期		サヌカイト、片岩、弥生土器、土師器、土師質土器、瓦器、黒色土器、製塙土器、土鍤、蛸壺	
尾崎清水	散布地	中世期		瓦器、瓦質土器、上師質土器、陶器、磁器	
尾崎清水	散布地	中世期			
尾崎清水	散布地	中世期	土坑、ピット、落ち込み	黒色土器、土師質土器、瓦器、瓦質土器、陶器、磁器、スサ入り焼土塊	
馬川	散布地	弥生～中世期	土坑	土師質土器、陶器、磁器、近世瓦、貨幣、鉄製品	
下出	散布地	中世期	落ち込み	サヌカイト、須恵器、瓦器、黒色土器、土鍤、蛸壺、中世瓦、陶器、スサ入り焼土塊	
黒田	散布地	中世期	土坑、溝、ピット	弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、土師質土器、製塙土器、蛸壺	
神光寺(蓮池)	寺院跡、散布地、その他の墓	旧石器～中世期	土坑	瓦器、土師質土器、白磁、中世瓦	
神光寺(蓮池)	寺院跡、散布地、その他の墓	旧石器～中世期	落ち込み	土師質土器	
向出	散布地	縄文～中世期			
向出	散布地	縄文～中世期	土坑	サヌカイト、土師器、須恵器、瓦器、黒色土器、土師質土器、陶器、磁器、鉄製品	
高田	散布地	縄文～中世期		須恵器、瓦器、土師質土器	
箱作今池	散布地、生産集落	古墳～中世期			



尾崎清水遺跡10-1区
トレンチ全景(北より)



尾崎清水遺跡10-2区
4トレンチ全景(南より)



尾崎清水遺跡10-2区
5トレンチ全景(東より)



尾崎清水遺跡10-2区
6トレンチ全景(北より)



尾崎清水遺跡11-1区
1トレンチ全景(西より)



尾崎清水遺跡11-1区
5トレンチ西側断面



尾崎清水遺跡11-1区
6トレンチ全景(東より)



尾崎清水遺跡11-1区
7トレンチ全景(東より)



尾崎清水遺跡11-2区
トレンチ全景(南より)



尾崎清水遺跡11-3区
1トレンチ全景(西より)



尾崎清水遺跡11-3区
2トレンチ全景(南より)



尾崎清水遺跡11-3区
3トレンチ 土坑4(東より)



尾崎清水遺跡II-3区
7トレンチ全景(西より)



馬川遺跡II-1区
トレンチ全景(東より)



下出遺跡II-1区
1トレンチ全景(南より)



下出遺跡II-1区
3トレンチ全景(南より)



下出遺跡II-1区
5トレンチ全景(南より)



黒田遺跡II-1区
1トレンチ全景(南より)



黒田遺跡11-1区
2トレンチ 第5層上面(南より)



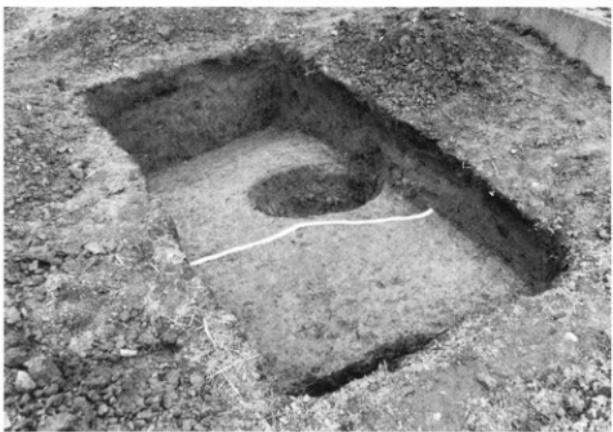
黒田遺跡11-1区
2トレンチ 地山面(南より)



黒田遺跡11-1区
3トレンチ全景(西より)



神光寺(蓮池)遺跡11-2区
トレンチ全景(北より)

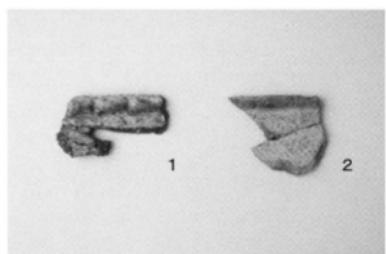


神光寺(蓮池)遺跡11-3区
トレンチ全景(東より)

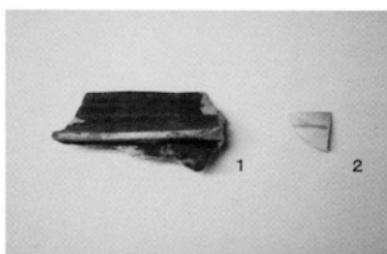


向出遺跡10-2区
トレンチ全景(西より)

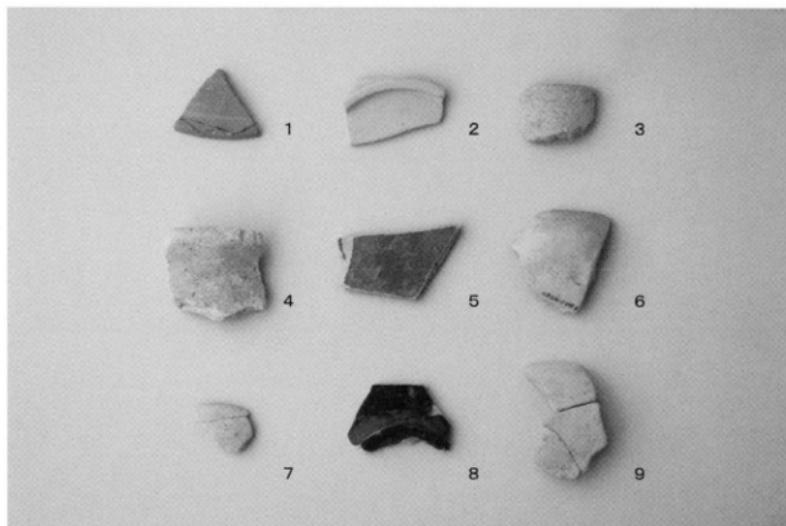




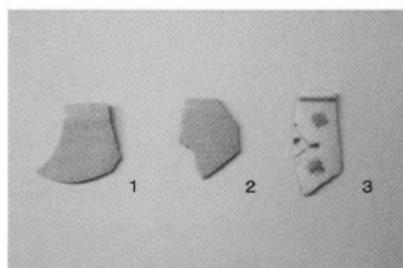
尾崎清水遺跡10-1区 出土遺物



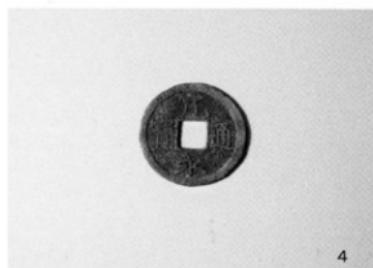
尾崎清水遺跡11-1区 出土遺物



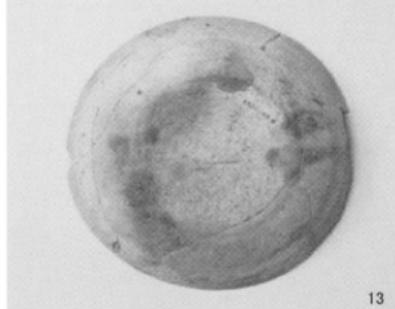
尾崎清水遺跡10-2区 出土遺物



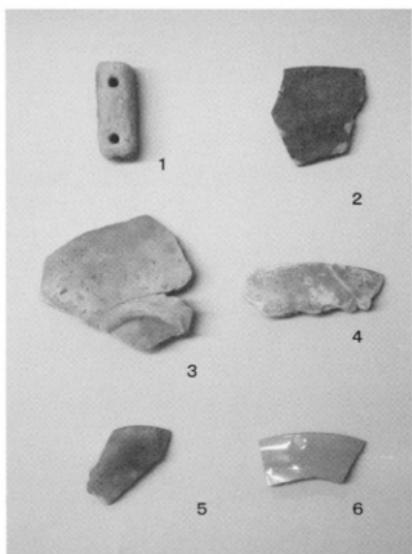
馬川遺跡11-1区 出土遺物



馬川遺跡11-1区 出土遺物

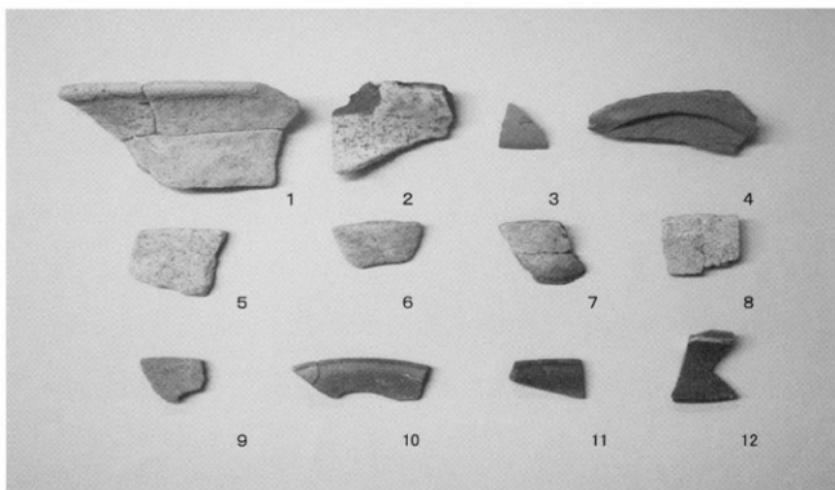


13

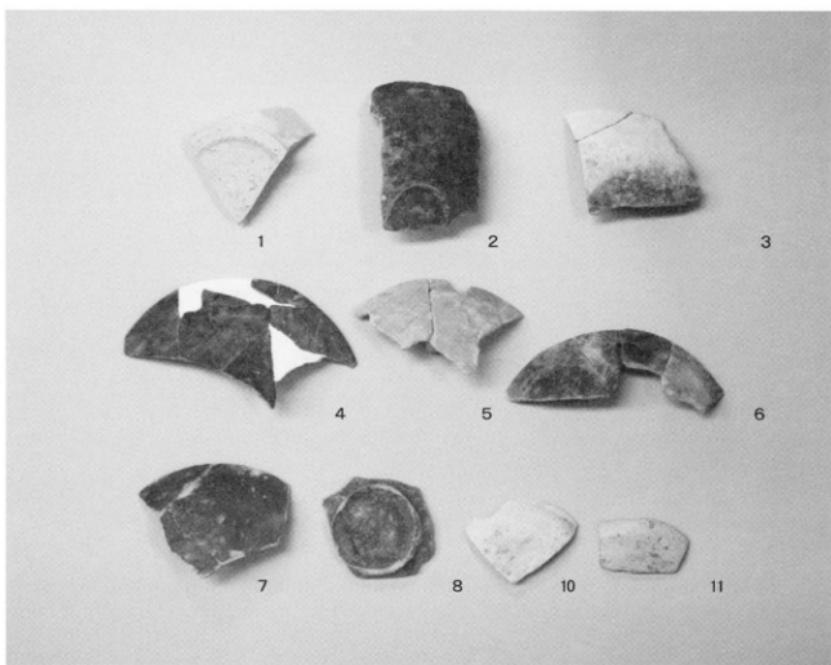


黒田遺跡11-1区 ピット3 出土遺物

下出遺跡11-1区 出土遺物



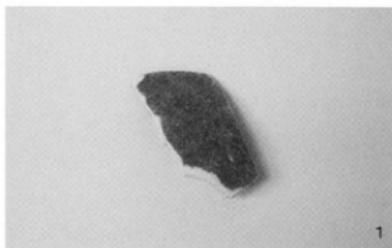
黒田遺跡11-1区 土坑2 出土遺物



神光寺(蓮池)遺跡11-2区 出土遺物



神光寺(蓮池)遺跡11-2区 出土遺物



向出遺跡11-1区 出土遺物

阪南市埋蔵文化財報告 50

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XXIX

2012年3月

発行：阪南市教育委員会生涯学習部

生涯学習推進室

大阪府阪南市尾崎町35の1

印刷者：三和印刷株式会社

